

知床世界自然遺産地域保全事業 (2016年10月～12月)

(1) 多様性に富むしれとこの森を復元する事業

この夏から 2003 年に設置した防鹿柵の改修作業を行っています。この柵は、全周が約 1,000 メートル、面積にして約 4.5 ヘクタールで、しれとこ 100 平方メートル運動地内で最大の防鹿柵です。設置から 13 年が経過し、現在柵を支えている木柱の腐食が進んでいることから、2～3 ヶ年計画で順次鉄柱（約 350 本）に打ち替えていく予定です。今年度は最終的に 61 本の鉄柱を打ち込み、既存のフェンスに取り付けました。

8 月の台風で倒壊し 9 月のダイキン工業の皆さんの協力を得て補修した岩尾別川沿いの防鹿柵の巡視を行いました。補修後には、何度か強風などもありましたが、当初の板張りから風圧を受けにくい金網フェンスに変更していることから、特に大きな異状もなく冬を迎えています。



鉄柱とフェンスの取り付け作業（10月）



岩尾別川沿いの防鹿柵の巡視（12月）

今後の森づくりの目標や作業計画を検討するため、先進的な事例収集を目的に北海道大学雨龍研究林を訪問し、ササ地の掻き起しなど参考となる取り組みの視察を行いました。



ササ地を掻き起した後に生えてきた稚樹（10月）



掻き起しに用いた重機（10月）

(2) 世界遺産の価値を守り、伝える事業

1. 次世代へ知床の森をつなぐ活動

地元の斜里高校 3 年生 15 名を対象としたしれとこ 100 平方メートル運動体験学習を行ったほか、知床自然センターにて、知床を訪れる多くの皆さんに知床の自然や歴史、100 平方メートル運動を伝える取り組みを行いました。



防鹿柵を見学する斜里高校の学生（10月）



知床自然センターでのレクチャー（9月）

2. ヒグマと人の共存を手助けする活動への支援

電気柵設置区間で9月に発生した道道の大規模な土砂崩れによる通行止めは、10月になっても継続したため、アクセス可能な区間について電気柵の維持管理作業を随時行いました。通行止め区間は、10月14、18、21日の指定された時間帯のみ、関係者に限って規制が解除されました。その後の年内解除はないとの事であったため、急遽14、21日の2日間で通行止め区間の電気柵を撤去しました。

一ヶ月以上もの間、状況が不明となっていた通行止め区間の電気柵には、懸念していたほどの大きな損傷はありませんでしたが、断線や小規模な土砂崩れによる損傷等は複数箇所で見られました。

11月に入ると雪も降り始め、ヒグマの出没がほぼなくなりましたので、根雪状態になる前の11月下旬に残りの区間の撤去作業を進めました。撤去作業では、ラインを支柱から外し、吹雪で飛ばないように紐で束ねて地面に下ろしました。グラスファイバー製のポールは、斜面から滑ってくる雪の重みで折れてしまわないように抜いて束ね、春の再設置に備えました。



土砂崩れに巻き込まれた電気柵



電気柵の撤去作業の様子

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。